

2020年2月15日

県連雪崩講習会（奥志賀高原）

参加者：倉澤・若奈・野中

9：00～15：00（午前：雪面観察 午後：雪崩事故捜索訓練）

県連主催の雪崩講習会に参加しました。

講習の内容は、

- ・地形観察
- ・積雪断面観察、コンプレッションテスト
- ・ビーコンなどを使用した埋没者の捜索方法

会の講習でビーコンの使い方練習をしたことはあったもの、実際の雪面での訓練は初めて。また、積雪断面観察や埋没者の救出方法に関しても初めて。

1. 地形観察について

雪崩が起きやすい、起きている地形には特徴がある。植生・斜面の傾斜・デブリなどを観察する力をつける。また、過去の気温の変化や降雪量にも注意を払う必要があるなどを講習。地形を見るクセをつける事と、降雪状況の把握が大事。雪崩が起きやすい斜面は25～35度。雪崩が想定される場合には、例え大変でも迂回し1人ずつ通過。ザックのウェストベルトやストックのベルトは外れ易くしておく、雪崩の時はそれがアンカーとなって下に沈んでしまうとの事。

2. 積雪断面観察、シャベルコンプレッションテストについて

斜面を掘り、ショベルとスノーソーで30CMの四角柱を作って観察。掘る時間は10分程度。断面には、見てわかる層もあるが、上から下まで順々に指でつついてみると雪質が全然違うことを体験。

次にシャベルコンプレッションテストのやり方を学び、実際に弱層を確認することができた。実際にずれた面はざらめ雪であり、弱層になっていた。また、雪に加わる衝撃は水平方向に伝わる事を学ぶために拡張コラムテストも行う。今回は水平方向のズレは起きなかった。なお、コンプレッションテストのような弱層テストは、弱層の強度を評価しているため、部分的な破壊が起きやすいかどうかを評価しているだけ。人為的な雪崩には、部分的な積雪層の破壊が広範囲に伝わる必要があるため、様々な場所での様々なコンプレッションテストを組み合わせることで積雪状況の判断をすることを学ぶ。

3. ビーコンなどの使用方法と捜索訓練

まずは自分のビーコンに慣れることが大事。出発前の送信受信のチェック、充電式電池は初期電圧が低いので指定された種類の電池を使用する、ビーコンの電波の伝播の仕方などを学ぶ。実際にビーコンを縦方向と横方向に埋めた時には受信距離に大きな違いが生まれる事が分かる。また、ビーコンに計算するためにゆっくり動く事も学ぶ。捜索時は、最初の電波を拾うまでは耳に当てて音で判断。拾ったらビーコンの示す方向に素早く動き、10M 近くなったら周囲をみて雪面上に何か遺留物が無いか確認。その後、クロスサーチで埋没地点の特定に移っていくとの事。実際にやってみると意外と難しい。

ゾンデ棒は、25CM 感覚で斜面に対して垂直方向に刺して探り、ヒットしたら埋没の深さに対して水平なるように斜面の下部から掘り進まないで埋没者を引き出す事が出来ないとの事。

なかなか一回の講習では身につけるのは難しいとは思いますが、実際にやってみると納得できるし地形や自分や他人の装備への興味も深まる。

講師からは、冬が始まる頃、仲間と集まってビーコンの練習をする。装備の不足に気づき、初心者は機器に慣れ、経験者は操作感覚を思い出す機会になる。そして、雪崩ビーコンを雪に埋めての練習をして、素早く探せることが最初の目標。また、ゾンデを使って位置特定をするまでの流れを仲間と共有することが大事とのことでした。